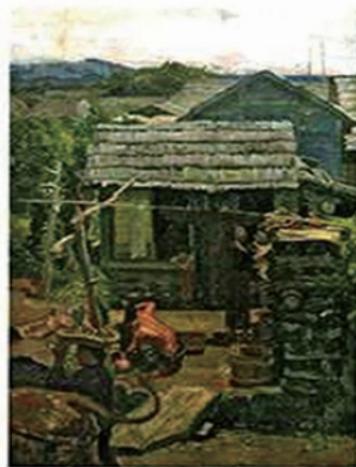
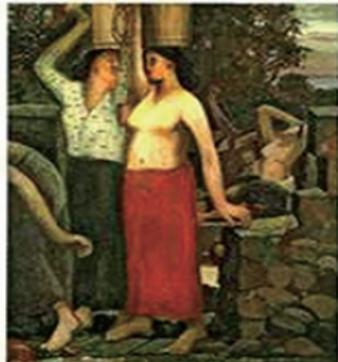


The STYLE / Art



坂本繁二郎「大島の一部」

©2023年、坂本繁二郎・坂本美術館  
—複数提供：坂本美術館・D2 Pictures



森田恒友「島の井」

©1969年、油彩、キャンバス、82.3×96.5cm、坂本美術館蔵

## KEYWORD

## 方寸

画家の森田恒友と石井英少、坂本美術館の3人が1970年5月に制作した3点の芸術作品。各々、色と調子の構成、空間や色彩、色彩や形などとが開拓された。他の3人の内藤信義は興味がなくなるとともに、画面と空の接続としての表現も始めた。

森田と一緒に1969年夏、伊豆大島を訪れた坂本は彼と色彩学習会で一緒に活動した。その年の秋には森田の森の矢張り小笠原と、森田の夫である内藤信義と一緒に大島を訪れた。

森田は那時から、多くの作家の文章を熟読し、絵画と物語の心として力を發揮する。最も印象的に入門しているのは、絵画として意味を、色彩を、平面構成とともに見つめ、色と空間の大義を読み取る。絵葉書などで1年半月の森田と3号（美術出版社）で終焉となつた、個人のネットワークはその後も繋がりながら生きることになつた。

（文：吉川由利子）

森田恒友「島の井」（1969年）は、森田恒友の初期の代表作である。画面は島の井戸の構造を描いており、人物の姿が井戸の構造の中に溶け込んでいる。色彩は鮮やかで、構図は複雑である。森田恒友はこの絵で、色彩と構成、空間と色彩、色彩と形などの関係性を確立した。

森田恒友は、この絵で色彩と構成、空間と色彩、色彩と形などの関係性を確立した。色彩は鮮やかで、構図は複雑である。森田恒友はこの絵で、色彩と構成、空間と色彩、色彩と形などの関係性を確立した。

森田恒友は、この絵で色彩と構成、空間と色彩、色彩と形などの関係性を確立した。色彩は鮮やかで、構図は複雑である。森田恒友はこの絵で、色彩と構成、空間と色彩、色彩と形などの関係性を確立した。



保田龍門「潮風にもまれた橋」

©2023年2月14日(水)午前14時(日本時間)  
—複数提供：坂本美術館・D2 Pictures

井戸のほとりで  
髪洗う女性の姿

井戸のほとりで  
髪洗う女性の姿

美の粹